

モニター通信 No. 5

皆さんから寄せられた「モニター通信 1 月分」を紹介します。

**「フードバンクを利用したことや、食品を寄付したことはありますか。」
～食品ロスとなりうる食品などを食に困っている世帯に届けるフードバンク。
あなたは利用したり、寄付をしたことはありますか。～**

モニターから No. 1

今回の題目について恥ずかしい事ですが、フードバンクを利用したり寄付をした事は一切ありませんでした。前にもフードロスについての考察の題目がありましたが、やはり世界中で飢餓に苦しんでいる人々を考えた場合、日本のようにほぼ誰もが毎日満身に食事が取れる事のありがたさや、その行為について深く感謝の念を持たなければならないとされているところです。何気なくスーパーで食品類等を購入している自分でも、特にその有難さや今後も子供や孫の世代に至るまで、その特性を十分に理解して後の世に伝えなければならないと思っています。

日々の食生活の中で、食品の寄付等については無理かもわかりませんが、毎日満足の食事が取れない人を思いつつ、食品等の買い物については必要以上に購入する事なく最小限に留め、日々の暮らしについて律して行きたいと思えます。

モニターから No. 2

フードバンクを利用して食料品をいただいたことはありません。寄付したことはありますが一度だけです。数年前もらいものの箱入りの乾麺を寄付しました。普段食料品は必要なものを必要なだけしか買わないので、買いすぎて余るといことはほとんどないし、いただきものは生鮮食料品が多いので、寄付するものがないのです。

フードバンクは食料品の値上りが続いている昨今、とてもよい活動だと思えますが、個人的には寄付の機会が少ないことは残念です。そして寄付する食料品についても賞味期限が2か月以上残っているものという条件も厳しすぎるような気がします。それほど期限が残っているなら何とか自宅で消費できると考える人は多いのではないのでしょうか。せめて1か月、できれば2週間ぐらいにすればもっと寄付が増えるのではと思います。

またフードバンクの具体的な活動の様子を知らせてもらいたい。どんな品物が集まり、どれくらいの人や家庭に分配されるのか、足りないことが多い食料品は何かなど年に一度か二度広報に載せてもらうなど、より多くの人にこの活動について知ってもらうことも必要だと思えます。

モニターから No. 3

フードバンクは利用したことはなく初耳でした。まだまだ食べられるのに廃棄されてしまう食品を必要な施設に無償で届ける活動ですが、取り扱う公共機関と食品生産の企業に改めてお礼を申し上げます。他のボランティアグループの知り合いから活動内容を聞いていたので、改めてお礼を申し上げます。さて、この活動はグループ内で十分果たせているのか、応援がほしいの

かどうか考えます。もう少し勉強しないといけないと思いますが、次を実施し

- ① 市役所等公共機関の作業内容分析と食品メーカーの作業内容の確認
- ② 食事を与える他のボランティア活動の行動内容の確認

この作業内容確認に基づき今の制度で良いのか、発展させるにはどうしたらよいか検討する必要があると思います。食事を与えて生きる活路を見出すこの制度は他にないことなので、今後の発展大いに望みます。

モニターから No. 4

土浦市消費生活展に参加して思ったこと。初めての参加で右も左もわからず、まず駐車場を確保しどこのブースでやっているのかをたずねながら体育館の中に入り、消費生活センターのブースを見つけることができました。業務内容等詳細を頂いてあったので、ハリキッテやらせて頂きました。

午前中だけのお手伝いだったので、あっという間に時間が過ぎてしまいました。充分なお手伝いできたのか、もっと工夫をして面白い事や新しい事に挑戦できたのではないかと色々考えさせて頂きました。たくさんの方々に来て頂き、活気のあるイベントであったと思います。大人も子供も喜ぶ景品があり、とても良かったです。「土浦市環境展」「土浦市子どもまつり」「土浦市グリーンフェスタ」も同時に開催しており、子供からシニアの方々までも賑わっていました。

消費生活に関心を持ってもらうために、とても有意義であったと思っています。

モニターから No. 5

今回のテーマ、私はフードバンクの利用や寄付はした事はない。そもそも節約の為に、必要のない物は購入しない、食材を無駄にしないようにしている。

今回のテーマを考え、そう言えばと思い、防災グッズの中を確認してみた。非常用にストックしていた子供の離乳食のレトルト品が出てきた。もう必要ないので、よく行くスーパーでフードバンクの箱があるのを知っていたので持って行った。しかし、年末年始だったからなのか箱は無くなっていて寄付する事ができなかった。また、年始に実家に帰省した際、大量のお菓子があった。どうしたのかと家族に話を聞くと頂き物だそう。健康の為に菓子類はなるべく食べないようにしているとの事。そして二人暮らしなので食べる人がいない。もったいないと分かっているけど、賞味期限切れにしてしまう事もあるそうだ。家族はフードバンクの事は知っているがどこで寄付できるかを知らず、近所のスーパーでは見かけた事がないそうだ。

個人レベルでも、いつでもどこでも利用や寄付が出来る仕組みが広がってほしいと思う。

モニターから No. 6

フードバンクの利用に関してですが、残念ながら一度も利用したことがありません。まず、どこに設置されているのか分からないこともありますが、最近の物価高の影響もあり、ほとんど賞味期限前に使い切ったり食べ切ったり、さらに余計なものは買わなくなったからです。あるいは気が付いた時にはすでに期限が過ぎてしまって、提供できないという結果になってしまっているからです。フードバンクの規定では、賞味期限まで2ヶ月残っているものを受け付けるというようになっているそうですが、ほとんどの人がその期限では次に備えて家に備蓄している状況だと思います。もう少し利用しやすくするためには、賞味期限までの残日期間をもう少し短くし

て、3週間から2ヶ月間というようにハードルを少し下げてもと思います。さらに情報発信を幅広く行い、市民に知ってもらおうということも大切なことではと思います。

今回このテーマで少しだけ知識が増えましたので、今後できるだけ協力できたらいいなと思います。

モニターから No. 7

何年か前に公民館に立ち寄った時、受付脇にドラム缶のような物に「きずなBOX」と書かれた物を見かけた。何だろう？と思って中をのぞいてみたら、その中には乾麺や缶詰があまり多くの量ではないが4～5種類入っていた。そうか、こういう物が役に立つ事があるんだと我が家の乾物や保存庫の中を頭に浮かべた事がある。だが、実際にその中に我が家の食材を入れた事はない。利用して下さる方がいればと思いつつ、用意して「きずなBOX」まで持っていく事までは出来ていない。

今回フードバンクがテーマだったので、改めてドラム缶型「きずなBOX」が頭に浮かんだが、実際に食材を用意するまでには至っていないのは何故？と考えてみた。まず、面倒くさいからなのか、それとも中に入っている物を利用している人を見かけないからなのか解らないが、「ご自由にお持ち帰りください」という文言の方が気軽に出来そうな気がする。だが、今回フードバンクというテーマに触れた事で、今一度「きずなBOX」の中をのぞいてみようと思った。

そして面倒くさいなどと言わずに、利用される事を見越して行動することをしてみようかという思いも、めぐらす事が出来たような気がする。

モニターから No. 8

近くに「フードバンク」がなかったこと、友人・知人・近隣人でこのような仕事に携わった人がいなかったことから、話題に乏しく利用したことは有りません。又、家族（夫婦・子供二人）の生活で、自分達の生活が精一杯で必要以上に食料品を買い込むことや、他人から厚意的に援助を受けるようなことは皆無で収入に見合った日常生活に明け暮れていたことから、日々に必要な食品のみを購入していたことが大きな理由とも思っています。「背伸びせず自己防衛」が身についたことから「無理無駄をせず」が当たり前の生活であったこと、自身が余裕のない生活だったようにも回顧しています。

昨今は日々の生活に贅沢とも思える事柄が蔓延・・・。「飽食・肥満」で身体の不調を訴えるものが散見されるが「日々の生活を慎み・健康管理に努め」生活貧困者への援護に少しで援護が出来れば思っている。

モニターから No. 9

フードバンクを利用したことはありません。寄付をしたこともありません。しかし、その活動は、よく知っています。知ってはいても、そこへのアプローチには、低いけれど垣根があるように思っています。フードバンクを利用して食料を戴くには、どの程度困窮している場合なのか、兄弟等に依頼して食品が手に入ればそれを利用すべきだと思いますし、お米が高くてしばらく買ってないけれど、お米を食べなくてもほかのもので間に合わせることはできます。それができるならフードバンクを頼るのは見当違いでしょう。周囲どこからも何も手に入らなくなったら、フードバンクを頼ろうとは思っています。

寄付するほうは、もっと考えてしまいます。物価高で、自身の食品を買い集めることさえ難しい昨今の時節、余るほどの食品は手元にはないし、かと言って、わたしより困窮している人がいるなら、助けてあげたいけど、フードバンクという事務所？に届けるには、最低でもどのくらいの量を届けないと役に立たないのかと考えると、例えばスーパーマーケットあるいは個人商店で多量に売れ残ったというものでもない限り、個人で寄付するという事は難しそう。いずれにしても、物価高でもなんとか生きている庶民には、フードバンクに関わる機会はなさそう。

モニターから No. 10

半年ほど前から、仕事帰りに利用しているスーパーマーケットにフードバンクへの食品寄付箱が設置されていることに気づき、興味を持って覗いてみたことがあります。箱の中には、まだ十分に新しい食品が入っており、どのような仕組みで回収され、必要としている人のもとへ届けられているのか関心を持ちました。日常の買い物の場でこうした取り組みを目にすることで、食品ロス削減や生活支援について考える良いきっかけになったと感じています。

行政には、フードバンクの仕組みや利用・寄付に関する相談窓口を分かりやすく明示し、迷ったときに気軽に問い合わせができる体制を整えていただきたいと思います。なお、現時点ではフードバンクの利用や食品寄付の経験はありません。

モニターから No. 11

土浦市役所内、福祉の店ポプラ、コープつちうら店などにきずなBOXと呼ばれる食品を寄付するための回収ボックスが、現在、市内の14か所に設置されているそうです。フードドライブ活動の一環である、きずなBOXの存在をコロナ禍の数年前に初めて知りました。当時、コープつちうら店に設置されたきずなBOXに乾麺を寄付させていただいたことがあります。しかしながら、ここ最近では食品を始めとした著しい物価高騰の影響で、きずなBOXに食品を寄付したことはありませんでした。

先日、コープつちうら店へ買い物に行った際にきずなBOXに食品を寄付されている方の様子を目にする機会がありました。家計のやりくりで、余裕がなくなっている人が少なくないと感じられる昨今、世知辛い世の中になったと痛感しています。寄付をする光景は、心に温かい光を灯してくれるひとときになりました。自分や家族でいっぱいな人が多いと感じる現代社会。食べきれない食品を寄付する取り組みは、社会問題にもなっているフードロスを減らすことにも繋がると思います。一方で、フードバンクやフードドライブの存在、加えて利用方法、寄付が可能な食品の条件などが広く知られていない現状があると感じられます。

今後も負担を感じず無理のない範囲で活動に参加したいと思います。

モニターから No. 12

スーパーマーケットに行くとコンテナボックスに色々な食材が詰め込まれているのを目にする事がある。初めて見た時はこれって何だろう？って思った。フードバンクと分かってもどうやって利用するのかも分からない。フードバンクについて調べてみると以下の様に説明があった。

フードバンクとは、まだ安全に食べられるにもかかわらず、様々な理由で流通できない食品を企業などから寄付してもらい、それを必要としている施設や困窮世帯に無償で提供する活動です。この活動は、食品ロスの削減と貧困問題の解決を目指しています。

- ・食品ロスの削減：品質に問題がないにもかかわらず廃棄される食品を減らします。日本では年間500万～800万トンの食品ロスが発生しています。
- ・貧困家庭への支援：食料を十分に確保できない人々や、食費のために他の生活を犠牲にしている世帯に食料を届けます。

でも、実際にどの様に利用するのもわからないので、地元のスーパーに行って店員さんにインタビューをしてみた。すると以下の事がわかった。まずフードバンク或いはフードドライブには誰でも自由に食料品を寄付する事が出来る。その際は勝手にフードボックスに入れて良い。消費期限は最低一ヶ月以上あること。それらの食料品は月に一回、ボランティアの団体が回収に来て子供食堂や市役所に登録済みの貧困家庭などに振り分けられる。具体的な利用方法が分かって良かった。まずは広く周知させて、この活動が沢山の人の協力を得られるようになると良いと思った。

モニターから No. 13

我が家はシングル家庭というもあり、社会福祉協議会などを通して、フードバンクを利用したことがあります。お米や調味料、とてもありがたかったです。また、我が家がフードバンクに寄付することもあります。我が家では使わなかったり、食べないもの、食べてくれる方にぜひ！と思って、コンビニやスーパーに置いてありますフードバンクのボックスに入れます。

この物価高のご時世、お互い様の精神で、助け合って生きていけたらと思う日々です。